あおい通信 第93号

第93号 平成25年2月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話 03－3978－0919

新東京街歩き その二 湯島天神

写真・文 七海邦夫

湯島天神は江戸時代から梅の名所として庶民に親しまれ、昨年三月には葵友の会の方々も訪れたおなじみのところ。更にこの神社を有名にしたのは、泉鏡花の「婦系図」の舞台になったからであろう。

春に先駆けて咲く梅の、凛とした花と香りは古くから人々に愛されてきた。本殿の近くと女坂の階段に沿った処の二箇所の梅園や境内の至る所に約三百本・二十数種の梅が咲き、その殆どが白梅で、「湯島の白梅」の所以となっている。

毎年、二月八日から三月八日に盛大な梅まつりが開催され、いろいろなイベントが催されるが、受験の時期と重なり、天神様に最後の望みを託す受験生や合格御礼の人々でも賑う。零れ落ちそうな絵馬の山と、満開の梅は湯島天神の風物詩となっている。

絵馬の山と満開の梅…

ところで菅原道真は何で天神様になり、学問の神様として崇められているのだろうか。

道真は幼少の頃から学問に秀で、宇多天皇に重用されて右大臣までに上ったが、左大臣藤原時平の讒訴で左遷され「東風吹かば匂いおこせよ梅の花主なしとて春な忘れそ」と歌って、大宰府に赴く。その梅が主を慕って一夜にして都から飛んできたという。この有名な「飛び梅伝説」で、梅と道真は切っても切れない繋がりが出来たが、真相は都の梅がこっそり株分け(?)されて移植されたらしい。天神様の神紋も加賀梅が使われている。

大宰府天満宮の「飛び梅」

絵馬の道真の死後、都には災や異変が続いたので道真の祟りと怖れられ、清涼殿での朝議中、落雷で死者が出たので道真は雷神と怖れられた。そこで、朝廷は道真に「天満大自在天神」の神号を贈り、京都北野に祀った。その後も、崇りとして怖れられ、全国に天満宮・天神様が広がったが、農民には稲作に欠かせない雨をもたらす恵みの神と崇められるようになった。

一方、道真が学問に優れていたところから、天神様は学問の神様として信仰を集め、受験生の頼みの綱になって現在に至っている。境内には、梅と絵馬の他、道真ゆかりの牛像や筆塚等もある。

世評・時評

マヤ暦では二〇一二年十二月二十二日に人類は終末を迎えると、昨年一部の人々が騒ぎましたが、何事もなく一三年の新年を迎えました。今から十数年前にもノストラダムスの予言とやらで、オウムを初め数々の怪しげな宗教が横行したり、地球が破滅するかのように怖れられましたが、その時も地球は何事もなくミレニアムを迎えました。

でも現在、マヤ暦の計算は違っていて本当の滅亡は二〇一五年だという説があるので、その頃までしまいます。もしかしたら、ノストラダムスの「中東が地球滅亡の発火点(?)」との予言が現実になってしまうのかと、心配になります。

日本は、今は安全で平和ですが、韓・中との問題もありいつまでノホホンとしていられるか。日本は中東や世界の平和に貢献が可能でしょうか。

日本は宗教的にイスラムと対立しない仏教国だから紛争の解決役となれると言われますが、それには国力を回復し、世界における発言力と指導力を強める必要があると思います。

(やぶにらみ)

たぞろ、騒ぎが起るかも知れません。今、世界で人々は地球の現状に不安を持ち、滅亡が現実になるのではないかと、恐れているのでしょうか。

一方、イスラム諸国では「アラブの春」で始った旧体制の崩壊と新勢力の権力争いが続き、シリアの内戦では同胞同士の殺し合いや、今度のアルジェリアのガス・プラントを襲撃したアルカイダ系のテロリスト達の外国人に対する容赦ない仕打ちを見ると、このままイスラム原理主義的な考えが蔓延したら人類は自滅に向うだろうとさえ思っ

心のヒッチ俳句

道端の残雪語る
人模様

命より重いものある
アルジェリア

阿部首相うまく
当ててョ三本矢

そっと出す検査結果を
見せる時

太るなよ千円違う
シャンプー代

湧泉

雑記帳

大塚芳男

三浦雄一郎の「傘寿」挑戦

今年（２０１３）５月８０才で世界最高峰のエベレスト（８８４８メートル）登頂をめざすという。

人間とは弱いもので、楽な方に心は傾いていく。苦労の多い仕事をするかしないかで迷う時は真っ先に〝しない〟方の言い訳がいくつも口をついて出てくるものである。

①無駄だろう？②意味ないだろう？③馬鹿だろう？④今さらだろう？⑤でもやるんだよ！どの分野であれ、①～④から⑤に跳躍するのが言うべくして難しい。

若い人でも、容易には手を出しかねる山である。「でもやるんだよ！」と、８０歳でみずからを奮い立たせた人、プロスキーヤーで冒険家の三浦雄一郎さんだ。７０歳で初登頂し、７５歳で再登頂も果たした三浦さんにとっては３回目のエベレスト挑戦になるという「傘寿」。多くの人が思い出すのはパラシュートだろう。かつてパラシュートを安定装置に使ってエベレストを滑降し世間を驚かせた。

あれから四十二年、生涯「でもやるんだよ！」の人である。８０才という年齢で、脅威の体力鍛錬と維持、気力の勢には、本当に頭の下がる思いである。

利用者さんの紹介コーナー

此元　千鶴子（火、土）

私の病気がきっかけで主人の新しい面をみることができました。うれしい発見です。家のことをいろいろやってくれます。夫婦は持ちつ持たれつ、二人でこれからもいろいろと乗り越えていきます。

和田　輝子（日、火）

今年二月九日で八十九歳になります。おかげ様で元気、卒寿も夢ではないと頑張っています。趣味は書道、謡曲、三十年以上になります。その他いろいろ挑戦しましたが、現在はパソコンにはまっています。

岸野　弘子（火、木）

週二回お世話になり、とても楽しい時間を過ごさせていただいています。ベランダで花を育てています。

世界平和は譲り合いから

上野　晴也

西東京市・田無公民館の学習会で心に強く感じたことをお伝えします。

一八九〇年、皇族小松宮御夫妻のトルコ・イスタンブール訪問に応える目的で、オスマン帝国の軍艦エルトゥールル号が帝国最初の親善訪日使節団として来日、その帰路、紀伊大島の樫野崎附近で台風に遭遇して座礁、沈没し、五八七名が死亡または行方不明の大惨事となった。

樫野崎灯台下に流れ着いた生存者が、断崖を攀じ登って燈台守に遭難を知らせ、大島村住民は総出で救助と介護に当った。当時、荒天のため出漁できず、蓄えも乏しい中、村民は非常食を全て提供し献身的にした救護の結果、収容された六九名全員が生還した。

知らせを聞いた明治天皇は心を痛め、政府として最大限の援助を指示、世論は多くの義捐金・弔意金を寄せ、生還者は日本海軍の軍艦比叡と金剛に依ってイスタンブールに届けられた。トルコの国内に、大島村民の救助と日本政府の尽力が伝えられ、人々は遠い日本と日本人に好印象を抱いた。

その後、日露戦争に勝利した日本に対し、永らくロシアの圧制を受けてきたトルコの人々が熱狂し、益々親日感情が醸成された。

一九八五年、イラン・イラク戦争に際し、イラン上空の無差別攻撃を宣言したイラクで、外国の航空機は自国民の救出を優先する中、自衛隊機や日本航空の在日邦人の救出が行なえない危機的状況下、トルコ航空機が時間切れ一時間十五分前のギリギリに、日本人二百十五名全員を救出した。

その時、トルコ航空機が危機を顧みず救助に向った理由は、「エルトゥールル号遭難の際の恩義」というのが答えだった。

まさに世界は援け合うことによって、幸福にならなければなりません。

光

神山　良一

ひげを剃ろうと手鏡を机の上に置いたが、シェーバーの電池が切れていたので充電する。ふと見ると、机の上の手鏡に朝の太陽の光が当たり、その反射光が天井の蛍光灯に当たって、そこが明るく輝いている。電気は点いていないのに、当たった場所はまさに点灯された時と全く同様の明るさである。

光（ひかり）明るさ
暗（くらさ）暗やみ

夜を明るくする【電灯の光】は電気が造る。電流は熱を生ずるが、光には熱はない。鏡に反射した光線は全く無熱である。光は無熱であるが、これを出すエネルギーは熱を生む。

光を作る無熱のものに【蛍】がある。鏡の反射がある。光線は当たるものにより光ったり、反射したり、遮られたりする。

宇宙の手鏡は、【月】である。月明りは、闇夜を少々明るくする。

光を化学的に作る方法はないものか？秋の夜はないものか？秋の夜長、夢見し夢のお話し。

戦後の大泉学園の話

ヨッチャン

くねった農道が多い練馬の北西部の中にあって、大泉学園町一帯は、成城を思わせるような区画されたマス目状の街路が築かれています。戦前まさに成城にならって、郊外の学園都市を開拓しようと誘致運動を試みたが戦争で挫折したそうな。

ちなみに、「学芸大付属大泉」は、この都市計画とは無関係で出来た学校で、区画地区の中に建つ大泉学園小、中、高校も、その後住民のために設けられた単なる公立学校であるそうです。

あおい俳壇

雨けぶる墓地にふくいく咲きそむる
　母の愛でにし水仙の花
降りし駅にりんごの香りただよいて
　北のはずれの町は雪空

麻生　伊登子

教育は「今日行くこと」で
　教養は「今日用」ある事なりと云う
老後にも教育教養必要と
　云う人あれど時既になし
残されし日を大切にささやかな
　達成感を味わひ生きむ

泉　貞子

腰痛に悩みつつ来しデイケアの
　人らそれぞれ皆優しけれ
老いて尚離れられざる二道あり
　細々なれど続け居る吾れ
（二道とは短歌道と詩吟道です）
一枚の葉書は君の計を知らせ
　来ることのなき賀状とられり

河西　千恵子

寒風につぼみふくらむモクレンや

相田　美代子

異国語のとび交う横濱冬の旅
幾歳の冬過ごされしやこの丘で
迷子になりし老嬢冬の旅

富　寿郎

自画像

介護　本橋陽子

昨年十月十八日より「葵」にお世話になっております。

現在、西東京市保谷二丁目に主人と息子の三人で生活をしています。

一日も早く皆様のお名前とお顔を覚え、お手伝いが出来ますよう頑張りますので、宜しくお願いします。

お詫びと訂正

二十五年一月発行のあおい通信九二号の今カツ子さんご執筆「秋田の方言」の中に誤入力がありました。お詫びして次のように訂正させて頂きます。

朝の風景より

①「わたしたちも」
訂正「わらしらも」

②「ぼたっこあびったからおじるこもってけ」
訂正「あぶった、おしるこ」

③「あば、なまぐにゴミへった」
訂正「まなぐ」

本文二十行目

④今朝のおしるこ緩める
訂正「暖める」

葵友の会　広報コーナー

1月度行事の結果

新年会（グルメの会）

18日（金）、横浜中華街・満珍楼にて豪華ランチの新年会、その後山手十番館のコーヒーと港の見える丘公園からの横浜港風景を満喫しました。30名の参加でした。

2月度行事の予定

カラオケ会・15日（金）

麻雀大会・20日（水）

（事務局長）

◆編集委員会よりお願いです

「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。担当飯島迄お申し出ください。